

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400211		
法人名	有限会社 ワンダー		
事業所名	グループホーム おむすび苑 (にしき・ひかり)		
所在地	〒802-0032 福岡県北九州市小倉北区赤坂1丁目7番18号 093-533-0631		
自己評価作成日	平成28年01月18日	評価結果確定日	平成28年02月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H.24年4月に開設しました。グループホームおむすび苑は、1階に小規模多機能型居宅介護を併設した施設です。三角のおむすび型をした造りで、1階におむすびサロン(地域と交流の場)があります。敷地内には、おむすび公園、菜園、畑があり1階から3階の利用者様が自由に散策できます。公園には四季の花々、菜園では季節の野菜を作り収穫を楽しんで頂き、採れたてを味わっていただきます。畑にはさつま芋が植わっていて11月11日に合同で収穫し公園内で焼き芋をしました。今年の夏祭りは、3施設合同で開催し、今まで以上に地域の方に大勢参加頂き、大盛況でした。地域の行事は(川の清掃活動、秋の運動会、市民センターの敬老会)にも参加し4年目を迎え交流を深めています。今後も地域の拠点となるよう活動していきます。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 093-582-0294		
訪問調査日	平成28年02月11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昔ながらの閑静な住宅街の中におむすび型をした敷地の中に、小規模多機能型居宅介護事業所を併設した2ユニットのグループホーム「おむすび苑」がある。地域の清掃活動や市民センターのイベント、校区の運動会等に参加し、地域との交流を深めている。また、ホームの夏祭りには家族や地域住民が参加し、開設4年目を迎えた地域密着型事業所である。更に、利用者は町内開催のカラオケ大会に積極的に参加し、馴染みの関係を築き、住み慣れた地域で町内会の一員として過ごしている。提携医療機関による隔週ごとの往診体制と、介護職員のきめ細かな観察で、利用者の健康管理は充実し、家族の安心に繋がっている。また、管理者と職員は、笑顔と思いやりを持って利用者が明るく、楽しく、安心できる環境づくりを目指し、利用者の自立に向けた支援に取り組んでいる「グループホームおむすび苑」である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員には、入社時、理念の説明を行っています。各フロアの目のつくところに掲示しています。また事業所の方針の共有のため、具体的な内容の【おむすび苑8か条】を毎週月曜日の朝に唱和し、共有を図っています。	グループホームが目指す介護サービスを示した理念と、「おむすび苑8ヶ条」を見やすいところに掲示し、毎週月曜日の申し送時に唱和し、理念について話し合い、理念の意義を職員一人ひとりが理解し、利用者がホームの中で、その人らしい暮らしの支援が出来るように取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、地域の清掃活動や市民センターのイベントや校区の運動会に参加したり、事業所の夏祭りや1階サロンを利用した町内開催のカラオケ会など参加していただいています。	利用者と職員は、地域の清掃活動や運動会、市民センターの活動に参加し、ホームの夏祭りには、家族や地域住民が参加し、地域との交流を行っている。また、地域交流室を開放し、カラオケ会を行い、地域との関係が深まっている。	利用者の重度化が進むと、地域の行事に出掛けることが困難になるので、1階の地域交流室を開放し、各種教室やボランティアの協力を受け、地域との信頼関係を構築していくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1回開かれる運営推進会議を通して、民生委員さんより相談を受け、地域包括支援センターの職員さんに報告する場所になっています。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎に開催し、利用者、利用者家族、自治会長、町内会長、民生委員、老人会、有識者の方に参加していただき、活発な意見や質問を受け、情報提供を行っています。	会議は、併設小規模多機能ホームと合同で、2ヶ月毎年6回開催し、ホームの運営や取り組み課題を報告し、外部の目を通した参加委員からは、質問や要望、情報等が提案され、有意義な会議である。出された案件や助案事項は検討し、次回の運営推進会議の中で実施状況等を報告し、ホーム運営に活かせる取り組みを行っている。	参加委員を地域で活動している有識者や知見者から募り、新しい風を吹き込み、ホームの運営や業務、地域の問題点の解決に向けて取り組む会議になる事を期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加される地域包括支援センターの職員の方に協力をいただいています。また介護サービス相談派遣事業に参加しサービスの取組みをみていただいています。	管理者やケアマネージャーは、疑問点や困難事例、事故等を行政担当窓口相談し、指導や情報を交換し、連携を図っている。また、運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席し、ホームの現状や取り組みを理解した上で、助言や情報を提供して貰い、協力関係が築かれている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置して、定期的な話し合いを設けています。今年度のプロジェクトとして「ひもときシートの作成」を取り入れ「事故の予測」「安心できる生活環境の提供」に努めています。	研修会や職員会議の中で、身体拘束について学んだ職員は、言葉遣いや薬も含めた拘束が、利用者にも与える影響を理解し、禁止行為の具体的な事例を検証し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、玄関は日中は開放し、利用者が職員の見守りで、自由に出入り出来る環境を整えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止や人権についての研修では、フロアごとビデオ鑑賞や資料を閲覧するようにして、防止に努めています。研修にも積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料やパンフレットをみながら、管理者、職員は理解しています。また成年後見制度の活用は現在しています。	現在制度の利用者はいないが、権利擁護に関する制度の資料やパンフレットを用意し、利用者や家族が必要な時には、制度の内容や手続きについて説明し、関係機関に橋渡しができる体制を整え、利用者の権利や財産が、被害を被らないように取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には、しっかりと時間をとり、十分な説明を行い質問にはわかりやすい言葉で丁寧に行い、理解と納得していただいています。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロアに意見箱を置いています。御家族・親族の面会時に意見や要望を聞いています。家族も協力的です。また意見や要望などは必ず申し送りノートを共有し、改善に向けて前向きに取り組んでいます。	職員は利用者の日々の暮らしの中から、思いや意向を把握し、家族面会や行事参加の時に、職員が家族と話し合い、利用者の希望や暮らし振り、健康状態等を報告し、家族から意見や要望、気になる事等を聞き取り、ホーム運営や利用者の介護計画作成に反映させている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見や提案を聞く機会を設けています。個々の意見にもきちんと耳を傾けています。代表者も参加する月1回の管理者会議では職員の意見や要望を報告しています。	定期的な職員会議ではないが、開催時には職員の意見や要望、提案等を話し合い、出された案件は、管理者会議で報告し、結果を職員に説明している。毎日の申し送りや日常業務の中で、職員の気付きや心配な事を話し合い、管理者に相談し、解決に向けた取り組みを行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の努力や実績など、年2回人事考課を行い勤務状況等を代表者に報告しています。職員が意欲を持ち、向上心を持って働けるよう整備に努めています。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は、年齢、性別、資格の有無に関係なく行っています。また役所より生保の方の就労の依頼があり、社会復帰に向けてのお手伝いをしています。実習性を受け入れそのまま入社に至り、能力を活かしています。シフト調整も希望を聞きながら、働きやすい環境をつくっています。	職員の採用は人柄や協調性を優先し、年齢や性別、経験等の制限はしていない。採用後は、職員の特技や能力に合わせて役割分担や勤務体制を柔軟に配慮し、働きやすい職場環境を目指している。また、希望休や勤務時間を調整し、職員の社会参加や、自己実現に取り組む体制を目指している。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修委員会で人権教育・啓発活動のビデオの鑑賞やユニットごとで資料の閲覧をしています。外部の人権研修にも参加したり、GH全体で人権教育に取り組んでいます。	利用者の人権を守る介護のあり方を、研修会や勉強会で学んだ職員は、利用者の尊厳や権利を尊重するための介護の実践に向けて、職員間で話し合い、職員同士で注意し合い、言葉遣いや対応に配慮し、利用者が安心してホームで暮らせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年、外部研修では病院やGH協議会、技術向上研修等、職員は積極的に参加しています。専門的な知識向上に努めています。苑内研修も研修委員会を中心に進めています。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に代表者・管理者・職員も参加して交流を深めています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントと要望を聞き取り、安心と安全が確保できるよう努めています。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント以外でも家族の思いや不安などをしっかり聞き取れるよう、何度もご家族と話し合い、信頼関係を築けるよう努めています。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人が今、何を必要としているのかを見極め支援しています。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の好きな事や趣味などを通して、一緒に何かを作ったり、共同でおやつを作ったりして楽しみながら暮らす関係を心掛けています。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に行い本人と家族の絆が途切れる事のないよう、家族の協力を得てカラオケや家に戻られたりしています。遠方の方には写真をおくったり、絵手紙を書いて、職員が一言添える支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントで本人とご家族の情報から趣味や交流関係を聞き取り、カラオケや自宅に戻れたり、外出、外泊など、御家族や兄弟(姉妹)の協力をいただきながら交流が途切れない支援をしています。	利用者の友人、知人の面会は、ゆっくり話せる場所やお茶等の提供で、何時でも面会が出来るように支援している。利用者の兄弟の家に遊びに行ったり、自宅に帰ったり、馴染みの店に職員と一緒に出かける等、利用者が、長年築いてきた人との関係や地域社会との関わりが、途切れないように支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	GH2ユニットの合同レクやフロア内のレクリエーションを一緒に行うなか、入居者同士の関わりを持ち、手を繋いで仲良く歩く姿もみられます。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院で退居された方のお見舞いの他、御家族に連絡して状態を伺ったり、お便りを出すなど、ご連絡がきれないように心掛けています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時は前のケアマネからの情報をいただき、アセスメントの他、面会時に、日常のふとした表情や近況をお知らせし本人の思いやご家族の意向を確認しています。	入居前に利用者や家族から、利用者の人間関係や生活習慣、嗜好等を聞き取り、職員は、利用者とは話題性のある話をしながら、思いや意向を聞き取り、職員全員で共有し介護の実践に活かしている。意向表出の困難な利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から今までの生活リズムや暮らし方などを聞き取っています。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の体調や、その日の状態に合わせてテーブルを拭いたり、茶わん洗いや洗濯物をたたんだり、出来る事を少しずつ手伝って頂いています。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日課表をもとに職員全員が日々のケアの中、「気づき」をとりあげられるよう、変化を見逃すことなく全員で情報を共有し入居者それぞれにあったプランを検討しています。	利用者や家族と話す機会を設け、意見や要望、苦情等を聞き取り、カンファレンスやモニタリングを行い、職員間で検討し、利用者本位の介護計画を作成している。また、日課表に利用者の支援経過を記録し、毎月実施状況を確認し、その結果を踏まえて計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にケアの記録を行い、サービス担当者会議や申し送りで情報を共有し、実践しています。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族様が体調不良や家族が遠方などその時々にあわせて買い物や病院受診など支援を行っています。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老々介護の為、ご主人がご入居され、残されて奥様がひとりでの在宅生活が安全に送れるよう相談業務に取り組んでいます。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	28年1月よりかかりつけ医が変わりましたが、御家族様の同意を得て、苑で診察を受けてもらっています。緊急時には救急病院への紹介をいただき適切な医療が受けられるよう支援しています。	入居前に利用者や家族と話し合い、協力医療機関による往診体制について理解を得て、主治医を決めてもらい、看護師と介護職員が協力し、利用者の早期発見、治療に取り組んでいる。また、利用者の急変時にも、主治医に電話で相談し、指示を受けて緊急搬送する体制が整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の疾患を留意したうえで、個々の健康管理と日々の体調を観察し、看護師に報告し適切な処置が行えるよう努めています。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院の連携室や病棟の看護師と密に連絡をとり信頼関係づくりに努めています。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に事業所の方針をご家族様に丁寧に説明しています。連携医と相談しながら重度化に対応した適切な医療が受けられるよう体制をとっています。	契約時に利用者や家族に、終末期の支援について、ホームで出来る支援について説明し、利用者や家族の希望を聴きとっている。利用者の重度化が進むと家族と段階的に話し合い、主治医の意見を参考にして、今後の方針を確認し、利用者がホームでぎりぎりまで暮らせる環境を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を研修項目に取り入れ全職員を対象にAEDの使用方法や心臓マッサージなどの救急救命訓練を行っています。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防職員立ち合いのもと、総合訓練を行っています。夜間を想定した通報・避難訓練も取り入れています。水消火器を使って消火訓練もなんども実施しています。年1回防火設備の点検を行っています。	消防署の協力と指導を得て、防災訓練を定期的を実施し、併設事業所と協力しながら、火元を特定して各事業所職員が、駆けつける体制を整えている。ホームが2階と3階にあるため、火元に遠いベランダや階段の踊り場に一時避難し、消防車の到着を待ちながら、利用者全員が安全に避難出来る体制を目指している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時には「人格の尊重」「高齢者の尊厳」「プライバシーの配慮」について研修を行います。慣れや強制的な言動のないよう、常に意識を高めています。	利用者の日常的な暮らしが、楽しく過ごせるようにするために、利用者のプライバシーを確保し、プライドや羞恥心に配慮した介護の実践に取り組んでいる。また、利用者の大切な個人情報の記録や職員の守秘義務について、管理者が職員に常に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人の希望や訴えなどが職員や管理者に表せるよう、また自己選択・自己決定ができるよう信頼関係を大切に働きかけています。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気の中、居室で読書を楽しめる方や衣類の整理をされる方、お部屋で休まれる方など一人一人の生活スタイルに合わせて過ごして頂いています。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日お化粧され方や、帽子の好きな方、その人らしい好みが見せるようにしています。イベントや外出時はマニキュアを塗ったりしておしゃれを楽しんでいます。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理に合わせて食器を選び、温かい物は温かく、見た目にも彩りよく、食欲がわくように努めています。テーブルを拭いていただいたり、食器洗い、米とぎなど会話をしながら、手伝っていただいています。	栄養士が献立し、法人厨房で調理された料理が配食され、栄養バランスやカロリー計算された料理を、職員の見守りと食事介助の中で食べている。また、おやつ作りには、利用者の食べたいものを聴きながら、利用者職員と一緒に作り、作って食べる楽しいひと時になっている。	食事は利用者一番の楽しみであるので、嗜好調査を実施し、好きな料理を利用者と職員と一緒に作り、テーブルを囲んで食事しながら、楽しい時間を過ごし、食欲増進に繋げることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの運動量や体格に合わせて、食べる量や水分不足にならないよう、御家族の協力のもと嗜好品など用意しながら、楽しい食事になるよう努めています。おやつレクでは、利用者様の嗜好品などを考慮しています。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科の往診が定期的にあります。本人の状態に合わせた口腔ケアの指導を受けながらケアを行っています。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、習慣化に向け支援し紙パンツから布パンツへ自立に向けた支援を行っています。	トイレでの排泄や、オムツを使用しないで済む暮らしは、利用者の生きる意欲に繋がるので、職員は、利用者の排泄パターンを把握し、紙パンツから布パンツへの移行の利用者も多く、早めの声掛けや誘導で、トイレでの自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間もトイレ誘導を行い、オムツ使用の軽減にも取り組んでいる。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に努め、運動の働きかけとして午前と午後、ラジオ体操、リハビリ体操、タオル体操や苑内歩行に取り組んでいます。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回の入浴を提供していますが、希望があれば回数を増やすこともあります。拒否があった際は日を変えたり、上手な言葉かけや時間をずらしたりして入浴ができるよう努めています。	入浴は週2回を基本とし、利用者がゆっくりと個浴を楽しめるように支援している。2階には機械浴を設置し、利用者が重度化しても、湯船にゆっくり浸かってもらい、職員の腰にかかる負担も少なくなっている。また、入浴を拒む利用者には、時間をずらしたり、無理強いをせず清拭や足浴に変更している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝は個々の習慣に合わせて安心して休むことができるよう支援しています。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援や症状の変化には充分配慮しています。副作用などには、全職員が理解できるようチェック表を作成して変化を見逃さないよう観察しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かし、洗濯ものをたたんだり食器洗い、手摺りやテーブル、鏡拭きや洗面台の掃除などや新聞を読んだり、読書を楽しんだり、楽しみ事や役割分担をして日々を過ごしています。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内におむすび公園、菜園、畑が開放しており気分転換を図っています。カラオケの好きな方は家族の協力を得てカラオケに出かけたりしています。	天気の良い日は敷地内のおむすび公園に出掛け、菜園で野菜や果物の手入れや収穫をしたり、採れたての芋を焼いたりして、季節を五感で感じている。また、利用者の希望を聴いて、外出レクや買い物に出掛け、気分転換に繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を持っている方もいます。使える支援もしています。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族の協力のもと、本人の希望がある時はいつでも連絡ができるよう支援して、お便りのやり取りができるよう支援しています。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアー毎にトイレは3か所設置しています。各階でアロマを利用して、消臭・抗菌とともにリラックスできる香りが漂っています。季節感を感じるよう飾り付けをしています。冬場は空気清浄器・加湿器を設置し乾燥を防ぐようにしています。	3階建ての1階には、地域交流室を設置し、2階と3階の室内は壁の色を変えて利用者が間違わないように配慮し、一日の大半を過ごすリビングルームは、仲の良い利用者同士が楽しそうに語り、職員と体操や作品作りに取り組み、バリアフリーを全館に設置して、明るい雰囲気の良い共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事時以外は自由な席に座ったり、暖かい日はバルコニーで日向ぼっこされたり居場所の工夫をしています。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットは用意していますが、タンスなどは使い慣れた物を用意していただいています。テレビや仏壇、書籍を持ち込んで自分の空間を作っています。	利用者が使い慣れた馴染みの箆笥や仏壇、テレビや鏡、生活必需品を、家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が安心して落ち着いた暮らしができるように取り組み、清掃が行き届き、清潔で明るい居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	三角のフロアーで、真ん中に台所があり、いつでも誰でも出入りができトイレもわかりやすくしています。		